

2022 年度しあわせ研究

多摩六都科学館との協働による、科学館を中心とした多文化共生活動への取り組み

研究員

村澤慶昭 高尾戸美
田中裕基 湯浅佳世子
木下佐和子 矢野礼美



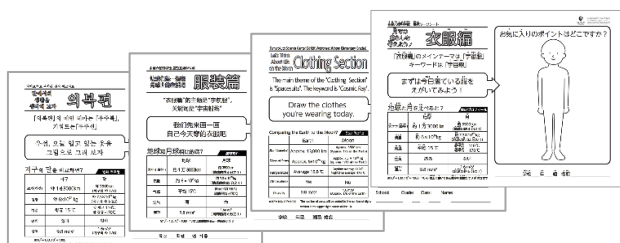
多くの人々が、自らも多文化共生社会を構成し、担う一員であるということを実感すると共に、積極的に周囲や社会に働きかけていくこと、さらには学生のサービラーニングを進めることを主眼に、2021 年度に引き続き 2022 年度も多摩六都科学館と連携した活動を行った。

具体的な活動としては、(1)昨年度作成したプロジェクト型ワークシートの再検討・改善、(2)改善したワークシートの多言語化、(3)ワークショップの実施、を行った。

(1)、(2)については、「ロクトリポート (ROKUTO REPORT)」にて「学校利用向けワークシート (多言語版) (2023.2 更新版)」として公開されている。

<https://www.tamarokuto.or.jp/blog/rokuto-report/2023/03/02/worksheet-multilingual->

(한국어、簡体中文、English、やさしい日本語)



一方、(3)については、学部 3 年生のゼミと連動させ、年少者日本語教育などを学

ぶ学生たちのサービラーニングの一環として、11 月 19 日 (土) の午後にワークショップを企画した。

①大学での学びや、留学生の強みを活かしたもの、②やさしい日本語を使う

(在住外国人には

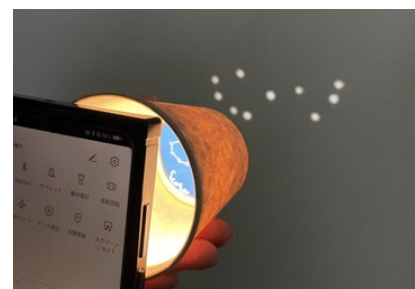
わかりやすく、日本人には「やさしい日本語」を知ってもらうことで、多文化共生について知ってもらう)、③常設展示室や科学館の展示内容を活かす、④参加者は小学生以上であればできるもの、一人でも、親子や友人同士でも楽しめるもの、であることが企画の条件だったが、長引くコロナ禍による制限下での実施となったため、学生発案のオリジナルクイズラリー実施へと変更となった。当日参加した子どもたちには、クイズラリー達成後、学生が試行錯誤して作成した手作りプラネタリウムキットが渡された。



当日の受付の様子

活動を通じて地域多文化共生社会の一拠点としての科学館の役割が確認できた。またそ

の企画に学生が主体的に関わることで新たな連携の可能性も見いだされ、ポストコロナに向けてのさらなる展開が期待される。



学生作成の手作りプラネタリウム投影例